

# 誰もが自らの持ち味を発揮できる、適材適所で個々が輝く集団づくり

Fukiya design.

## 活動の目的

『秘密基地生活』という名の子ども社会づくり研修の活動をととして、  
《参加する子ども達にとって》

○ 初対面・異年齢の集団で自律した社会をつくる生活の中で、自分はどんな個性・持ち味をそこに提供することができるのかを考え実践することで、社会との関わりの中で生かしていくことができる自らの魅力を発見する。

→自分の持ち味が集団のため役立つことを見つけ、適材適所で自ら動く“小リーダー”たちが絶妙に噛み合う『生きた集団』の人材をつくる。

《受け入れていただく地域にとって》

○ 地域に潜在する魅力的な学習素材を発掘する → それを活用した学習のモデルづくりをすることで、多くの人が利用することのできる持続的な体験学習プログラムを創出・構築していく。

○ 地域に潜在する魅力的な導きの人材を発掘する → 地域が既に有している魅力的な人材が稼働し始め、地域の人の主導による持続的な取り組みが安定することを目指す。

《オーガナイザー側にとって》

○ 人づくり・地域づくりのために機能する、そこならではの有効なプログラムのモデルづくりを試み、各地でその提案を続けていく。

## 活動の内容及び経過

### ① Field 蒜山（真庭市）

かつて牛舎であった跡を活動フィールドとすることで、避難所疑似体験を想定した“ひとつ屋根の下での俄か社会づくり”の経験に挑戦した。

### ② Field 吹屋（高梁市）

永年、活用されることなく廃墟に近づいていっている天文台と周辺の公園を活動フィールドとすることで、「まだまだ、こんなにも遊べる・学べる」という積極的活用モデルを示し、“地域の財産を復活させる”機運に一役買うことに挑戦した。

### ③ Field 駕龍寺（倉敷市）

当地に既に存在していた“子育てグループ”。この、保護者さま仲間がオーガナイザーに、子どもたち仲間が中心的な参加者となって実施することで、地元チームとしてのセルフ企画力・広報力・運営力・危機管理能力を意図と狙いをもって向上させることに挑戦した。

### ④ Field 前島（瀬戸内市）

できる限り、その地で調達が可能なもので作った道具により、その地で調達可能な食材を獲得することにこだわり、短い時間の中にあってもリアルな“自給自足”の喜びを体感することのできる活動に挑戦した。

《広報の基本方針》～この情報を必要とするところへ確実に届けるために～  
ひとつのプログラムを実施するごとに、時間のある限り、できるだけ多くの市町村教育委員会に“名義後援”をいただきに訪問する。そして 時間のある限り、できるだけ多くの学校を訪ね、各学校長に「子ども便により、広く各御家庭宛てにこの情報をお届けしたい」旨、お伝えしていく。これが、教育現場経由できっちりと広範囲の子育て世代家庭に情報を届ける切り札であると考えている。

## 活動の成果・効果

○ 参加者が、自らの地域においても魅力的な活動プログラムを創出しようと動き始めた。

→繰り返し親子参加される御家庭。お住まいの地域に潜在する魅力的な学習素材を見つけ、それを生かした体験学習プログラムを自ら企画し始めている。



○ 参加者に、セルフ企画力が 確実に育っていている。

→Field 蒜山に参加した6年生リーダーの例：夕食後の自由団楽タイムに、なにやら全員が集まっていた。どうやら、一人の6年生女兒が女の子チームと企画部隊を組み、景品までも俄かに段取りして《ビンゴゲーム》を取り仕切って始めたのだった。全員を巻き込む、そのリーダー力は圧巻だった。

○ 参加者がリーダーシップの喜びを知り、さらなる活躍を求めるようになった。

→Field 駕龍寺に参加した中学生リーダーの例：「今後、より企画側に近い立場で参加したい」と意思表示し、次年度の計画立案に志願して参加するようになった。

○ 活動場所の地元から参加して下さったスタッフさんが、その後も自分たちの企画によって活動プログラムを創出・継続しようと動き始めた。

→自らスタッフとして参加することで「これは、いい!」と感じて下さった地元の方が、その地域の学習素材を見つけて独自のプログラムをつくっていくことをスタートし始めている。

○ 地域ごとの魅力的な学習素材を生かした《体験学習プログラム》のモデルづくりについて、「ぜひ、うちで」という、自らの地域での実施に積極的な“おさそい”の打診が増加してきている。

→《県教委からの名義後援 → できるかぎり多くの市町村教委からの名義後援 → 学校長経由の案内》 毎回、この流れをコツコツ繰り返すことで、隔々の地域までこの活動の魅力が伝わり、「此処でもぜひ、地域特有の素材を生かしたモデルづくりを」という熱烈リクエストに繋がっていている。

## 今後の課題と問題点

「地域ならではの学習素材」を生かし、「地域で活躍する導き人材」によって、「地域で育つ子どもたち」のための体験の機会・学びの機会・挑戦の機会を生み出していくという、“地域で持続できる”理想の展開に到達するまで、歩みを止めることなく発展しながら、活動を継続していかなければならない。

●代表者：那須啓文 ●所在地：倉敷市

●TEL：090-4141-1883 ●E-MAIL：nike68@true.ocn.ne.jp

●設立年：2010年 ●メンバー数：7名